

令和 4 年 6 月 21 日現在

機関番号：17102

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2021

課題番号：18K12015

研究課題名(和文) 気持ち悪さの認知多層科学

研究課題名(英文) Cognitive multilayered science of disgust

研究代表者

山田 祐樹 (Yuki, Yamada)

九州大学・基幹教育院・准教授

研究者番号：60637700

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では気持ち悪さという感情について多方面・他側面から総合的に実験的検討を行った。結果として、不気味さ、不快感、嫌悪感等に関する多くの知見が得られ、また期間中に起こったコロナ禍との関連をあえて調べることによって、行動免疫システムといった嫌悪に関わる重要な従来理論の理解も深めることができた。また副次的に学術出版や研究慣習自体の大きな変革に立ち会うことにもなり、心理学の未来を見据えることができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究によって、我々は将来的な技術変革や社会的情勢変化によって生ずる可能性のある未知の心理現象について検討する重要性を実感した。例えばクローン減価効果に関する知見は、将来アンドロイドやクローン技術や急速に発展した際に起こりうる問題を事前に先取りして得られたものである。また心理学の研究方法についても急速な変化が生じており、その方法論的前進は正負両側面を内包している。本研究はこうした大きな変化の中で実行され、その研究実践自身が変化に晒されただけに、これからの社会・学術両方へ意義ある提案をできる素地を形成することにつながったと考える。

研究成果の概要(英文)：In this study, we conducted a comprehensive experimental investigation of the emotion of disgust from various perspectives. As a result, we obtained many findings on uncanny, discomfort, disgust, and so on. We also deepened our understanding of important conventional theories related to disgust, such as the behavioral immune system, by examining the relationship with the COVID-19 pandemic that occurred during the period of the study. As a side effect, we could observe major changes in academic publishing and research practices themselves, and the future of psychology is now in sight.

研究分野：認知心理学

キーワード：嫌悪感 感情 COVID-19 研究慣習 学術出版

## 1. 研究開始当初の背景

ヒトは、強い臭いがする食べ物、毛虫やゴキブリ、道端に放置された動物の死体、壁のシミの模様、他者の容姿や行為、いわくつきの土地など実に多種多様なものを気持ち悪がる。気持ち悪さは誰もが日常的に頻繁に感じていて、「きもい」という略語は若者中心に広く浸透している。我々の日常に寄り添っているこの気持ち悪さとはいったい何なのか。実はその聞き馴染みとは裏腹に、意外にも気持ち悪さのメカニズムは明らかにされていなかった。少なくとも「気持ち悪い」が「嫌い」という態度を構成する感情の一つであることは間違いないだろうと考えられた。しかもそれは強い身体反応を伴う、強烈で生々しい感情である。心理学者は、単純接触効果 (Zajonc, 1968) や視線カスケード効果 (Shimojo et al., 2003)、あるいは消費者心理学での効用や意思決定時の判断過程の研究のように、「好き」の側面に関する研究に専ら注目してきた。それに比すれば「嫌い」に関する知見は圧倒的に不足していた。特に気持ち悪さの研究は、Paul Rozin や、わが国の今田純雄による嫌悪感・食嫌悪に関する取り組みが有名だが (※本研究では気持ち悪さを嫌悪感よりも広い概念として区別した)、「嫌悪感に敏感な人」や「嫌悪感を喚起しやすい対象」など、嫌悪刺激の分類、嫌悪表情、嫌悪に相関する脳部位の分類に関する理解が主であった (Rozin et al., 2008)。こうした知識は百科事典的に網羅・記述されてきたにもかかわらず、肝心の「どのように気持ち悪さを体験するのか」という認知メカニズムの全容は明らかでなかった。

## 2. 研究の目的

本研究では気持ち悪さを感情の一種と捉えた。気持ち悪さの意識的体験には複数の無意識的な感情処理が関与しており、最終出力は何らかの形式での統合によって決まると考えた。そもそも気持ち悪さは、緊急でない「中期的」損害を回避する機能であり、そのメカニズムは意識的・無意識的処理過程の両方によって成り立つだろう (Damasio et al., 2000)。認知メカニズムは低次の処理出力を高次処理へ送り、統合しながら単一の意識内容を作り上げるため (そうではない意識モデルも多数あるが、情報統合の考え自体は比較的受け入れられる)、本研究では気持ち悪さにも同様の過程が存在すると考えた。

しかし気持ち悪さの全容理解のためには、この認知モデルを暗室実験で実証するだけでは不十分であった。心的処理過程、神経基盤、文化間・種間比較、日常への応用の全てが繋がり合いながら明らかにされて初めて気持ち悪さを理解したと言える。この基準で考えるなら、世界的にも気持ち悪さ研究はまだスタートラインにすら立っていないかった。応募者はこうした現状のブレイクスルーを達するために本研究を構想した。本研究のゴールは気持ち悪さの多面的・総合的理解であった。

## 3. 研究の方法

気持ち悪さに関して離散的・散発的に行われてきた研究を、系統的に収斂させようとした。気持ち悪さの心理的基盤と神経基盤はどのようなもので、どの民族が、どの動物が、それを感じているのか現在でも不明な点が多いことから、本研究は気持ち悪さを5側面から解明し、その統一理論を確立することを目指した。応募者は平成26-28年度に挑戦的萌芽研究「気持ち悪さの認知的メカニズム」にてその先鞭をつけ、極めて多様なコラボレーションを「萌芽的に」開始できた。そこでは心理・脳・比較・応用の全ての側面について、広範なネットワークによって検討できる体制を構築してきた。その狙いは気持ち悪さ研究の世界的拠点の基盤を形成することであった。この目標へ向け、次の5つの側面を明らかにしようとした。気持ち悪さの1) 認知モデル、2) 神経基盤、3) 認知メカニズムの種間差・4) 文化差、ならびに5) 日常場面での応用。さらに、全トピックに通底して哲学とデータサイエンスの観点も組み込む。それぞれについて個別の研究を行いつつも、トップダウン的な関連付けや柔軟なコラボレーションによって有機的に研究同士を結びつけていく作業を徹底した。

## 4. 研究成果

結果として、まず側面1に関しては研究初期から多くの証拠収集を実施し、主に感情処理 (郷原・佐々木・山田, 2018, 基礎心理学研究; Gobara, Yoshimura, & Yamada, 2018, *Scientific Reports*; 米満・井隼・山田, 2018, 感情心理学研究; 佐々木・米満・山田, 2019, 心理学評論; Marmolejo-Ramos et al., 2020, *Experimental Psychology*; Zhu et al., 2020, *PeerJ*; Yoshimura et al., 2021, *Journal of Cultural Cognitive Science*; Wang et al., 2021, *Nature Human Behaviour*; Yonemitsu et al., 2021a, *PLOS ONE*, 2021b, *BMC Research Notes*), 嫌悪感 (Nitta et al., 2018, *Cognitive Research*; Zhu et al., 2020; Qian & Yamada, 2020, *Frontiers in Nutrition*; Yamada, Xu, & Sasaki, 2020, *F1000Research*), 身体化認知 (Yonemitsu et al., 2018 *Palgrave Communications*; Yoshimura et al., 2019, *Journal of Cognition*; 佐々木ほか, 2019; Marmolejo-Ramos et al., 2020; Liu et al., 2020, *Cognitive Research*; ), コロナ禍における行動変容 (Yonemitsu et al., 2020, *Royal Society Open Science*; Yamada et al., 2021, *Scientific Data*; Zhang et al., 2020, *JMIR Research Protocols*; Yang et al., 2020, 2021, *PeerJ*; Lieberoth et al., 2021, *Royal Society Open Science*; Wang et al., 2021; Rachev et al., 2021, *PLOS ONE*; Van Bavel et al., 2022, *Nature*

*Communications*) といった側面についての研究が活発になされた。今後はこうしたエビデンス相互の繋がりを集約した、説明力の高いモデルの構築が望まれる。

一方で側面 2 と 3 についてはコロナ禍の影響も含む諸般の事情が発生し、研究公表に至るまでの十分な検討を実施することが難しかった。この点は今後の大きな課題として掲げたい。

側面 4 については、主に国際的マルチラボ研究によって達成されることが多かった。例えば Yamada et al. (2021), Lieberoth et al. (2021), Wang et al. (2021), Van Bavel et al. (2022) などはその代表的なものとして挙げられ、いずれも 100 名以上の研究者による数十カ国間での共同研究として行われている。こうしたメガラボではなく、中国雲南省の少数民族の村を訪れフィールド実験を行った Zhu et al. (2020) は趣が異なり、1 つの小規模集団に対して詳細な検討の重要性も提案している。

側面 5 については具体的に日常生活を取り上げようとした研究は少ないが、上述のコロナ禍に関連する多くの研究はまさにこの社会の激変における人々の心理的・行動的特徴を捉えようとしたものであるためそれに該当すると思われる。少し観点は異なるが、「研究者の日常」つまりは研究慣習や学術出版に関する議論や検討も同時に活発に行なった。例えば Trafimow et al. (2018, *Frontiers in Psychology*) では帰無仮説有意性検定における p 値に使用について議論した。Yamada (2018, *Frontiers in Psychology*) や佐々木ほか (2019), Ikeda et al. (2019, 心理学評論), Sasaki & Yamada, 2020, *Frontiers in Research Metrics and Analytics*), 長谷川ほか (2021, 心理学研究) では事前登録制度についての詳細な議論を行っている。そして Yamada (2020, *Collabra: Psychology*), Yamada (2021, *Publications*), Teixeira da Silva & Yamada (2021, *Current Research in Behavioral Sciences*), Yamada & Teixeira da Silva (2022, *Quality & Quantity*) では学術出版における問題点の指摘と新たな提案をいくつも行った。その他にもポストドク問題 (Yamada, 2019, *Nature Human Behaviour*) やオープンサイエンス (Parsons et al., 2022, *Nature Human Behaviour*) に関するコメントを出したりした。

本研究はその全てが順調に進行したわけではなく、一定の偏りとともにいくつもの挫折の中でなんとか進めてきたものであった。ここでの成果や課題の多くにはコロナ禍にまつわる社会的変化からの影響を受けたものも多く、それ自身が学術的に興味深いこともある。これらを適切に評価し、本研究を次のステージへ押し上げたいと考えている。少なくとも研究者 1 名で回すには困難が伴うことが多くなってきたため、複数の分担研究者や研究協力者を異分野・同分野問わずに集め、チームとして気持ち悪さ解明の研究を推進していくつもりである。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計41件（うち査読付論文 37件 / うち国際共著 10件 / うちオープンアクセス 38件）

1. 著者名 Qian Kun, Yamada Yuki	4. 巻 7
2. 論文標題 Exploring the Role of the Behavioral Immune System in Acceptability of Entomophagy Using Semantic Associations and Food-Related Attitudes	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Frontiers in Nutrition	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fnut.2020.00066	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 Yamada Yuki	4. 巻 6
2. 論文標題 Micropublishing During and After the COVID-19 Era	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Collabra: Psychology	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1525/collabra.370	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 Yamada Yuki, Xu Haoqin, Sasaki Kyoshiro	4. 巻 9
2. 論文標題 A dataset for the perceived vulnerability to disease scale in Japan before the spread of COVID-19	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 F1000Research	6. 最初と最後の頁 334
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.12688/f1000research.23713.2	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 Yonemitsu Fumiya, Ikeda Ayumi, Yoshimura Naoto, Takashima Kaito, Mori Yuki, Sasaki Kyoshiro, Qian Kun, Yamada Yuki	4. 巻 7
2. 論文標題 Warning 'Don't spread' versus 'Don't be a spreader' to prevent the COVID-19 pandemic	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Royal Society Open Science	6. 最初と最後の頁 200793
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1098/rsos.200793	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Liu Huanxu, Yang Jingwen, Yamada Yuki	4. 巻 5
2. 論文標題 Heat and fraud: evaluating how room temperature influences fraud likelihood	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Cognitive Research: Principles and Implications	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s41235-020-00261-2	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yamada Y. et al.	4. 巻 8
2. 論文標題 COVIDiSTRESS Global Survey dataset on psychological and behavioural consequences of the COVID-19 outbreak	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Scientific Data	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41597-020-00784-9	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Zhang Lunbo, Yan Ming, Takashima Kaito, Guo Wenru, Yamada Yuki	4. 巻 9
2. 論文標題 The Effect of the COVID-19 Pandemic on Health Care Workers' Anxiety Levels: Protocol for a Meta-Analysis	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 JMIR Research Protocols	6. 最初と最後の頁 e24136
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2196/24136	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Guo Wen, Liu Huanxu, Yang Jingwen, Mo Yuqi, Zhong Can, Yamada Yuki	4. 巻 9
2. 論文標題 Stage 2 Registered Report: How subtle linguistic cues prevent unethical behaviors	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 F1000Research	6. 最初と最後の頁 996
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.12688/f1000research.25573.2	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yang Jingwen, Wu Xue, Sasaki Kyoshiro, Yamada Yuki	4. 巻 8
2. 論文標題 Changing health compliance through message repetition based on the extended parallel process model in the COVID-19 pandemic	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 PeerJ	6. 最初と最後の頁 e10318
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.7717/peerj.10318	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Sasaki Kyoshiro, Yamada Yuki	4. 巻 5
2. 論文標題 Boosting Immunity of the Registered Reports System in Psychology to the Pandemic	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Frontiers in Research Metrics and Analytics	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/frma.2020.607257	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yoshimura Naoto, Morimoto Koichi, Murai Mariko, Kihara Yusaku, Marmolejo-Ramos Fernando, Kubik Veit, Yamada Yuki	4. 巻 5
2. 論文標題 Age of smile: A cross-cultural replication report of Ganel and Goodale (2018)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of Cultural Cognitive Science	6. 最初と最後の頁 1~15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s41809-020-00072-3	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Yamada Yuki	4. 巻 9
2. 論文標題 How to Protect the Credibility of Articles Published in Predatory Journals	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Publications	6. 最初と最後の頁 4
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/publications9010004	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 長谷川 龍樹・多田 奏恵・米満 文哉・池田 鮎美・山田 祐樹・高橋 康介・近藤 洋史	4. 巻 -
2. 論文標題 実証的研究の事前登録の現状と実践 OSF事前登録チュートリアル	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 心理学研究	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4992/jjpsy.92.20217	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Lieberoth A. et al.	4. 巻 8
2. 論文標題 Stress and worry in the 2020 coronavirus pandemic: relationships to trust and compliance with preventive measures across 48 countries in the COVIDiSTRESS global survey	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Royal Society Open Science	6. 最初と最後の頁 200589
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1098/rsos.200589	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Yoshimura, N., Yonemitsu, F., Marmolejo-Ramos, F., Ariga, A., & Yamada, Y.	4. 巻 2(1):21
2. 論文標題 Task difficulty modulates the disrupting effects of oral respiration on visual search performance	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of Cognition	6. 最初と最後の頁 1-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5334/joc.77	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 佐々木恭志郎・米満文哉・山田祐樹	4. 巻 62(3)
2. 論文標題 利き手側の良さ 事前登録されたCasasanto (2009) の直接的追試	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 心理学評論	6. 最初と最後の頁 262-271
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ikeda, A., Xu, H., Fuji, N., Zhu, S., & Yamada, Y.	4. 巻 62(3)
2. 論文標題 Questionable research practices following pre-registration	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Japanese Psychological Review	6. 最初と最後の頁 281-295
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Sasaki, K., & Yamada, Y.	4. 巻 7
2. 論文標題 Crowdsourcing visual perception experiments: a case of contrast threshold	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 PeerJ	6. 最初と最後の頁 e8339
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.7717/peerj.8339	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Marmolejo-Ramos, F., Murata, A., Sasaki, K., Yamada, Y., Ikeda, A., Hinojosa, J. A., Watanabe, K., Parzuchowski, M., Tirado, C., & Ospina, R.	4. 巻 -
2. 論文標題 Your face and moves seem happier when I smile. Facial action influences the perception of emotional faces and biological motion stimuli.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Experimental Psychology	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 佐々木恭志郎・山田祐樹	4. 巻 COGPSY-TR-007
2. 論文標題 実験心理学者も快適に論文投稿したい	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 認知心理学会テクニカルレポート	6. 最初と最後の頁 1-6
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -



1. 著者名 山田祐樹	4. 巻 62(3)
2. 論文標題 未来はごく一部の人の手の中 研究者評価の歪みがもたらす心理学界全体の歪み	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 心理学評論	6. 最初と最後の頁 296-303
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 三浦麻子・友永雅己・原田悦子・山田祐樹・竹澤正哲	4. 巻 62(3)
2. 論文標題 心理学研究の新しいかたち CHANGE we can believe in 特集号の刊行にあたって	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 心理学評論	6. 最初と最後の頁 197-204
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yamada, Y.	4. 巻 3
2. 論文標題 Publish but perish regardless in Japan	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Nature Human Behaviour	6. 最初と最後の頁 1035
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41562-019-0729-9	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 米満文哉・井隼経子・山田祐樹	4. 巻 25
2. 論文標題 レジリエンスと感情処理過程の関連性-注意の瞬き課題を用いた検討-	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 感情心理学研究	6. 最初と最後の頁 58-61
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4092/jsre.25.3_58	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Nitta Hiroshi, Tomita Haruto, Zhang Yi, Zhou Xinxin, Yamada Yuki	4. 巻 3
2. 論文標題 Disgust and the rubber hand illusion: a registered replication report of Jalal, Krishnakumar, and Ramachandran (2015)	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Cognitive Research: Principles and Implications	6. 最初と最後の頁 15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s41235-018-0101-z	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yonemitsu Fumiya, Sasaki Kyoshiro, Gobara Akihiko, Kosugi Koji, Yamada Yuki	4. 巻 4
2. 論文標題 ' 'Close, and ye shall find' ': eye closure during thinking enhances creativity	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Palgrave Communications	6. 最初と最後の頁 80
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1057/s41599-018-0138-0	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yamada Yuki	4. 巻 9
2. 論文標題 How to Crack Pre-registration: Toward Transparent and Open Science	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Frontiers in Psychology	6. 最初と最後の頁 1831
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fpsyg.2018.01831	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 郷原 皓彦, 佐々木 恭志郎, 山田 祐樹	4. 巻 36
2. 論文標題 オノマトベから想起される自伝的記憶	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 基礎心理学研究	6. 最初と最後の頁 197 ~ 205
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14947/psychono.36.34	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Gobara Akihiko, Yoshimura Naoto, Yamada Yuki	4. 巻 8
2. 論文標題 Arousing emoticons edit stream/bounce perception of objects moving past each other	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Scientific Reports	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41598-018-23973-4	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Trafimow David et al.	4. 巻 9
2. 論文標題 Manipulating the Alpha Level Cannot Cure Significance Testing	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Frontiers in Psychology	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fpsyg.2018.00699	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Guo Wen, Liu Huanxu, Yang Jingwen, Mo Yuqi, Zhong Can, Yamada Yuki	4. 巻 8
2. 論文標題 Stage 1 Registered Report: How subtle linguistic cues prevent unethical behaviors	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 F1000Research	6. 最初と最後の頁 1482
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.12688/f1000research.20183.4	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Zhu Siqi, Sasaki Kyoshiro, Jiang Yue, Qian Kun, Yamada Yuki	4. 巻 8
2. 論文標題 Trypophobia as an urbanized emotion: comparative research in ethnic minority regions of China	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 PeerJ	6. 最初と最後の頁 e8837
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.7717/peerj.8837	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Teixeira da Silva Jaime A., Yamada Yuki	4. 巻 2
2. 論文標題 An extended state of uncertainty: A snap-shot of expressions of concern in neuroscience	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Current Research in Behavioral Sciences	6. 最初と最後の頁 100045
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.crbeha.2021.100045	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yang Jingwen, Wu Xue, Sasaki Kyoshiro, Yamada Yuki	4. 巻 9
2. 論文標題 No significant association of repeated messages with changes in health compliance in the COVID-19 pandemic: a registered report on the extended parallel process model	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 PeerJ	6. 最初と最後の頁 e11559
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.7717/peerj.11559	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Wang Ke et al.	4. 巻 5
2. 論文標題 A multi-country test of brief reappraisal interventions on emotions during the COVID-19 pandemic	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Nature Human Behaviour	6. 最初と最後の頁 1089 ~ 1110
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41562-021-01173-x	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Yonemitsu Fumiya, Sasaki Kyoshiro, Gobara Akihiko, Yamada Yuki	4. 巻 16
2. 論文標題 The clone devaluation effect: A new uncanny phenomenon concerning facial identity	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 PLOS ONE	6. 最初と最後の頁 e0254396
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0254396	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Rachev Nikolay R., Han Hyemin, Lacko David, Gelp? Rebekah, Yamada Yuki, Lieberoth Andreas	4. 巻 16
2. 論文標題 Replicating the Disease framing problem during the 2020 COVID-19 pandemic: A study of stress, worry, trust, and choice under risk	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 PLOS ONE	6. 最初と最後の頁 e0257151
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0257151	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Van Bavel Jay J. et al.	4. 巻 13
2. 論文標題 National identity predicts public health support during a global pandemic	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Nature Communications	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41467-021-27668-9	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Yonemitsu Fumiya, Sasaki Kyoshiro, Gobara Akihiko, Yamada Yuki	4. 巻 14
2. 論文標題 The clone devaluation effect: does duplication of local facial features matter?	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 BMC Research Notes	6. 最初と最後の頁 400
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s13104-021-05815-1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yamada Yuki, Teixeira da Silva Jaime A.	4. 巻 -
2. 論文標題 A psychological perspective towards understanding the objective and subjective gray zones in predatory publishing	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Quality & Quantity	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s11135-021-01307-3	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Parsons Sam et al.	4. 巻 6
2. 論文標題 A community-sourced glossary of open scholarship terms	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Nature Human Behaviour	6. 最初と最後の頁 312 ~ 318
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41562-021-01269-4	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計17件 (うち招待講演 1件 / うち国際学会 3件)

1. 発表者名 Sasaki, K., Watanabe, K., & Yamada, Y.
2. 発表標題 Emotional judgment of invisible tryphobic images
3. 学会等名 The 22nd Annual Meeting of the Association for the Scientific Study of Consciousness (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Ikeda, A., & Yamada, Y.
2. 発表標題 Human-human chain of moral disgust
3. 学会等名 The 11th International Conference on Knowledge and Smart Technology (KST2019) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Wagner, K. D., Yamada, Y., Croley, J. A., & Wilson, J. M
2. 発表標題 Tryphobia: Implications for Dermatology
3. 学会等名 The 29th Annual Meeting of the Association of Psychoneurocutaneous Medicine of North America (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 佐々木恭志郎・山田祐樹・渡邊克巳
2. 発表標題 触るな危険！？ 円形集合体への接触忌避反応
3. 学会等名 日本認知心理学会第16回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yoshimura, N., Yonemitsu, F., Marmolejo-Ramos, F., & Yamada, Y.
2. 発表標題 Inefficient visual search requires observer's nasal respiration
3. 学会等名 日本認知心理学会第16回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山田祐樹
2. 発表標題 感性理解のための遊撃的研究
3. 学会等名 日本心理学会第82回大会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 石川知夏・小林哲生・中響子・米満文哉・山田祐樹
2. 発表標題 男性の多い職場で働く女性による顔の魅力判断
3. 学会等名 日本心理学会第82回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山田祐樹・佐々木恭志郎・井隼経子
2. 発表標題 感情の身体化が崩壊するとき
3. 学会等名 日本心理学会第82回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 佐々木恭志郎・渡邊克巳・山田祐樹
2. 発表標題 意図的行為に基づいたモノの所有感
3. 学会等名 日本心理学会第82回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 米満文哉・佐々木恭志郎・郷原皓彦・山田祐樹
2. 発表標題 ヒトの重複によるきもみ
3. 学会等名 第2回犬山鯨類鰭脚類行動シンポジウム
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 池田鮎美・山田祐樹
2. 発表標題 嫌なやつと握手した人は嫌なやつ? -ヒトを介した道徳的嫌悪の二次感染-
3. 学会等名 日本基礎心理学会第37回大会
4. 発表年 2018年



1. 発表者名 徐皓芹・佐々木恭志郎・山田祐樹
2. 発表標題 トライボフォビアにおける「感染」
3. 学会等名 日本基礎心理学会第37回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 米満文哉・佐々木恭志郎・郷原皓彦・山田祐樹
2. 発表標題 Me, me, me. -クローン減価効果はアイデンティティの重複に起因する-
3. 学会等名 日本基礎心理学会第37回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 池田鮎美・徐皓芹・富士直斗・朱思斉・山田祐樹
2. 発表標題 追い込まれた右利きは右を選びやすい
3. 学会等名 第2回犬山認知行動研究会議
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 吉村直人・森本光一・村井麻里子・木原悠朔・Veit Kubik・Fernando Marmolejo-Ramos・山田祐樹
2. 発表標題 とあるガネルの国際的査読付事前登録直接追試
3. 学会等名 第9回Society for Tokyo Young Psychologists
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 池田鮎美・徐皓芹・富士直斗・朱思齊・山田祐樹
2. 発表標題 追い込まれた右利きは右を選びやすい：事前登録されたでっ上げ研究
3. 学会等名 第9回Society for Tokyo Young Psychologists
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 米満文哉・井隼経子・山田祐樹
2. 発表標題 心理的レジリエンスにおける時間的注意の特性 注意の瞬きを用いた検討
3. 学会等名 第9回Society for Tokyo Young Psychologists
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計6件

1. 著者名 Yamada, Y., Tanaka, T., & Iwasa, K., eds.	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Lausanne: Frontiers Media	5. 総ページ数 126
3. 書名 Behavioral Immune System: Its Psychological Bases and Functions	

1. 著者名 河野 哲也、山口 真美、金沢 創、渡邊 克巳、田中 章浩、床呂 郁哉、高橋 康介	4. 発行年 2021年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 464
3. 書名 顔身体学ハンドブック	

1. 著者名 山口 裕幸、中村 奈良江	4. 発行年 2020年
2. 出版社 サイエンス社	5. 総ページ数 304
3. 書名 心理学概論	

1. 著者名 三浦佳世・河原純一郎	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 216
3. 書名 美しさと魅力の心理	

1. 著者名 日本基礎心理学会	4. 発行年 2018年
2. 出版社 朝倉書店	5. 総ページ数 608
3. 書名 基礎心理学実験法ハンドブック	

1. 著者名 松尾 太加志	4. 発行年 2018年
2. 出版社 サイエンス社	5. 総ページ数 269
3. 書名 認知と思考の心理学	

〔産業財産権〕

〔その他〕

研究代表者のウェブサイト  
<https://sites.google.com/site/jyamadayuk/>  
研究代表者のWebサイト  
<https://sites.google.com/site/jyamadayuk/>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------